



ひよこだよ



都立葛飾ろう学校 乳幼児教育相談
令和5年7月13日 NO. 4

言葉のはたらき

東京の梅雨明けはまだですが、晴れた日には夏本番のような暑さに汗が流れる季節となりました。元気いっぱいの笑顔で来校してくれる子供たちがいる一方で、風邪などの体調不良でお休みされる方も多かった6月でした。都内では、ヘルパンギーナやRSウイルス感染症が大きな流行となっています。どちらも発熱と風邪症状があり、検査するまでは新型コロナウイルス感染症との区別が難しい症状が見られます。幼い子供たちはマスクができないため対策が難しいですが、これらは、特別な治療法やワクチンはなく、十分な睡眠と規則正しい生活、そしてこまめな手洗い・うがい等の感染症予防対策が大切となります。保護者の方も、これからの暑さに向けて疲れをためないよう元気にお過ごしください。

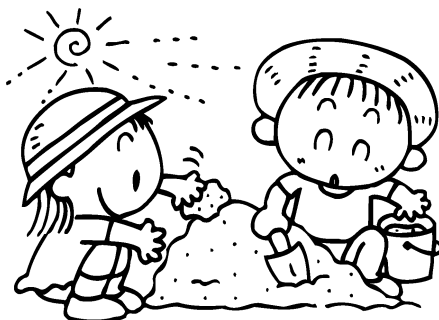


さて、先月と今月の保護者教室は、木島照夫先生（元ろう学校教員）による『聞こえない子の認知・言語・心の発達』の講演でした。前半と後半の2回にわたってじっくりお話を聞き、保護者の皆さんが作成している絵日記や、写真絵本、ことば絵じてん等を発表していただきました。どの保護者の方も、我が子が楽しく言葉に触れていけるように、お子さんに合わせたさまざまな工夫がされていて、大変参考になる発表でした。御参加いただけなかった方も、資料はお渡ししますので、ぜひお読みになってお子さんの子育てに御活用ください。

聞こえない子供たちの言語力を高める取り組みについて保護者教室を行ったわけですが、そもそも言葉にはどんなはたらきがあるのか、「言葉の機能」について今回は詳しくお伝えしたいと思います。

伝える手段としての言葉

言葉の機能・はたらきの分類には、さまざまなものがありますが、大きく3つに分ける捉え方があります。その1つ目のはたらきは、物事や自分の気持ちを相手に伝えるための**コミュニケーションの道具**としての言葉の機能です。1歳を過ぎた頃の幼い子供でも、指差しと「欲しい・したい」という手話を使って、一生懸命に「あのアンパンマンのぬいぐるみが欲しい」ということを伝えてくれたりします。言葉としては未熟な表現ですが、コミュニケーションは言葉だけで行われるのではなく、互いの表情や視線の動き、しぐさ、何気ない振る舞いなども含めて

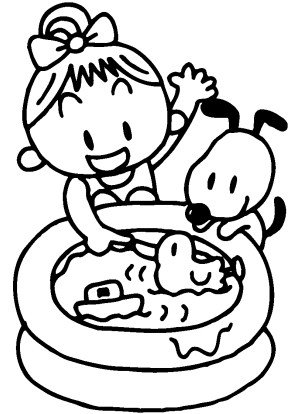


交わされるものなので、子供の全体の様子を見ていれば、「あ、このアンパンマンのぬいぐるみが欲しいのだろうな」と大人は推測し応じることができます。パパやママに自分の思いを伝えることができ、要求がかなうという経験を積み重ねていくことで、子供は自分自身への信頼（自信）と保護者の方への信頼を深めていきます。そうすると、さらに子供は積極的に信頼できる大人とコミュニケーションをとるようになります。コミュニケーションの道具と

しての言葉の力は、自分を含む人を信頼する力、そして思いやりをもって人と関わる社会性を支える大きな土台となっているのです。

考える道具としての言葉

次に、言葉がもつ2つ目のはたらきは、頭の中で物事を考える時の道具としての機能です。例えば、夕食にハンバーグを作ろうと決めてスーパーへ買い物に行く時に、「ひき肉と、玉ねぎと、卵を買って、あとサラダにはレタスと、トマトときゅうりがあればいいかな。」等と買う物を考える、このような時にまさに言葉が考える道具となっています。言葉がこうしたはたらきをもつようになると、目の前にないことについても話をするができるようになります。「パパはお仕事に行った」「あとで、〇〇しよう」「車にかぎを忘れた」等、過去のこと、未来のこと、見えない場所にあるもののこと等について考えることができますようになります。目の前にないことについても言葉を使って考えることができるようになると、言葉がもつ3つ目の機能がはたらくようになります。



自分の行動を調整する手段としての言葉

3つ目のはたらきは、自分の行動をコントロールする手段としての機能です。1歳児、2歳児のグループ活動では、自由遊びが終わると太鼓を鳴らして「遊びは、おしまい。お片付け」と合図とともに、遊びの終わりを知らせます。もっと遊びたいけれど、「終わり」と言って遊びを終わらせられる。この時に、言葉は自分の行動を調整する役割を担っています。より成長すると「おうちに帰ってから、おやつを食べよう」「時計の長い針が4になるまでに、着替えをしよう」「プランコの順番を交代したから、今度はA子ちゃんの番」等、より複雑なことも納得できるようになっていきます。言葉を使って考える力が伸びてきたからこそ、その考えをもとに自分の行動を調整する力が伸びていきます。そして、「もっと〇〇したい」という欲求が出れば、また1つ目のはたらきである伝える手段としての言葉を使って、周囲の人へと関わるようになっていきます。子供の生活の中で、これらの言葉のはたらきが入れ替わりながら作用しあって、全体としての言葉の力が伸びていくというわけです。

社会で求められる力とは？

木島先生の講座の中で、社会に出てから求められる力についてのお話がありました。まずは、日本語力と基礎学力が身につけていること、そして挨拶ができる、敬語が使える等の社会常識やマナーが身につけていること、自分の聞こえの状況と必要な支援について周囲の人にきちんと説明ができること（セルフ・アドボカシー）が、会社で働く時に必要と言われます。全てが言葉の力だけで培われるものではありませんが、社会の中で自分の力を発揮していくためには、言葉の力も大切です。



まずは子供の興味や関心のある事柄について、まずは親子で自由にたくさんコミュニケーションをとることを楽しんでください。そして今回学んでいただいた写真カードやことば絵辞典など視覚的にわかりやすい手立てを使いながら、体験を手話や日本語と結び付けていくことを通じて、子供の世界がより豊かになることを願っています。（担当：松澤）